

## W-2-1

### 談話資料から見る九州方言条件形式の分布

岩田美穂（就実大学 iwata@shujitsu.ac.jp）

#### 1. はじめに

本発表では、以降の各論の前提として九州方言における条件形式を概観する。

俯瞰的な観察のために最もよく使用されるのは『方言文法全国地図』（以下 GAJ）等の方言地図であるが、こうした方言地図は、特定の質問項目に対する回答であり、多様な形式が現れにくい問題がある。方言談話資料を用いて形式を採取すれば、方言地図の分布と比較・対照することにより詳細な実態を把握することができるのではないか。そこで、本発表では、談話資料を用いて、大規模な地図には現れない形式を拾いつつ、九州方言においてどのような条件形式が見られるのかを概観する。

本発表で扱う条件表現は、共通語において主としてバ・タラ・ナラ・トによって担われる表現とする。条件表現の意味分類としては、有田（2007）を元に予測的条件文、認識的条件文、反事実的条件文、事実的条件文、総称的条件文の5種とする。

条件表現は、全国的にみて方言特有形式は少なく、バ・ト・タラ・ナラがそれぞれ固有の領域をもって分布する（三井 2009）。GAJ および「全国方言分布調査」（以下 FPJD）によれば、九州方言においても全国的な傾向と同様にバ・ト・タラ・ナラが分布する。GAJ167 図「雨が降れば船は出ないだろう」では全体としてバ類が広く分布している。GAJ168 図「雨が降ったらおれは行かない」ではバ類に加え、タラ類も広く分布する。GAJ169 図「お前が行くとその話はだめになりそうだ」ではバ類に加え東部においてト類が増える。GAJ170 図「そこに行ったらもう会は終わっていた」ではタラ類が広く分布する。

また、九州の各地における条件表現の体系についての代表的な研究としては三井氏の一連の研究がある。大きな特徴として、九州西北部には方言特有形式としてギ類が分布し、特に佐賀県において使用範囲が広く活発に用いられる（三井 2011）、熊本県ではナラが事実以外の広い範囲で用いられる、方言特有形式のトシャガがある（三井 2015、2017）、大分県国東半島周辺で新しい形式としてテカラが拡大している（三井 2019）などが指摘されている。

以上のように、九州方言は全国的にみて数少ない方言特有の形式を有し近年注目されており、各地の条件表現の体系の記述が進められている。本発表では、談話資料に見られる条件表現形式を整理し、特に歴史的な観点を加えながらこれらの分布をみることで、九州方言の条件形式研究の一助としたい。

#### 2. 調査資料・調査方法

調査資料は、日本放送協会（編）『全国方言資料』第6巻九州編・第9巻離島へき地編Ⅲ（収録は1954年、1961年。話者は、1880年生まれ～1900年代生まれ。種子島および屋久島を除く。以下、『資料』とする）、国立国語研究所（編）『全国方言談話データベース 日本ふるさとことば集成』第18・19・20巻（調査は1977～1983年。話者は1892～1915年生まれ。以下、『ふるさと』とする）である。

調査は、資料から条件文が用いられている例および条件形式が用いられている例をすべて収集した。

#### 3. 調査結果

##### 3.1 全体概観

収集した用例を用法別、形式別に一覧にまとめたものが表1である。（バ類とギ類は異形態が多いため代表形で表記している）以下、予測的条件文と事実的条件文に限定して分布をみていく。用例は言い淀みやフィラーは省いて記載する。また、用例の最後に県・地点、資料名・ページ数を示す。

表 1 形式一覧

|      |           | 予測            | 反実 | 認識    | 事実           | 総称     |
|------|-----------|---------------|----|-------|--------------|--------|
| 福岡県  | 北九州市      | バ・タラ          | バ  |       | タラ・バ         | バ      |
|      | 福岡市       | タラ・タナラ        |    |       | ギリ?          |        |
|      | 久留米市      | バ・ナラ・ギ        |    |       | バ・ギリ         | バ・ギリ   |
|      | 豊前市       | バ・タナラ・テカラ     |    | ナラ    | バ・タラ・テカラ     | テカラ    |
| 佐賀県  | 佐賀市       | バ・ナイ (ナイバ) ・ギ | ギ  | ナイ・ギ  | ギ            | ギ・ナイ・バ |
|      | 玄海町       | バ・タリヤ・ナリヤ     |    | ナラバ   | タレバ          | タレバ    |
| 長崎県  | 平戸市       | バ             |    |       | バ・タラ (タリヤ)   | バ      |
|      | 南島原市      | タナラ           |    | ナラバ   | タリヤ (タル)     |        |
|      | 福江 (五島)   | タラ・ト          |    | ナラ    | タラ・バ         | タラ・バ   |
|      | 新魚目 (五島)  | バ             |    |       | タラ           |        |
|      | 壱岐        | バ・ギ           |    | ナラ    | タラ (タヤ)      |        |
|      | 対馬        | バ・タラ・ギ        |    | ナー    | バ・タラ         | バ      |
| 熊本県  | 熊本市       | バ・ナラ・トシャガ     |    | ナラバ   | ナラ?ト・トシャガ    | ト      |
|      | 山都町       | バ・ナラ          |    | ナラ    | ナラ?ト・トシャガ    |        |
|      | 錦町        | バ             |    |       | バ・タラ         |        |
|      | 天草市 (佐伊津) | タロ            |    | ナレバ・ギ | バ・タリヤ・ギ      |        |
| 大分県  | 由布市挾間町    | バ・ト           |    |       | バ・タラ・ト       |        |
|      | 庄内町       | バ             |    | ナラ    | バ            |        |
|      | 臼杵市       | バ・ト           |    | ナラ    | バ・タラ         |        |
|      | 佐伯市弥生町    | バ             |    | ナラ    | バ・タラ (ター) ・ト |        |
| 宮崎県  | 延岡市南方     | バ・タリヤ         |    | ナラ    | バ・タラ・ト       | ト      |
|      | 五ヶ瀬町      | バ・ト           |    | ナラ    |              | バ      |
|      | 宮崎市       | バ・タラ・ト        |    |       | バ・タラ・ト       |        |
|      | 日南市       | バ・タラ・ト        |    |       | タラ・ト         | ト      |
| 鹿児島県 | 阿久根市      | バ             |    | ナラ    | タラ (タヤ)      |        |
|      | 鹿児島市      | バ・タナラ (タナー)   |    |       | バ・タヤ・ト・ギ     | バ・ト・ギ  |
|      | 枕崎市       | バ・タラ (タリヤ)    |    | ナラ    | バ・タヤ         | ト      |
|      | 肝付町高山     | バ             |    |       | バ・タヤ         |        |
|      | 南九州市穎娃町   | バ・タラ (タリヤ)    |    | ナラ    | バ・タヤ・ト       | バ      |
|      | 指宿市山川町    | バ・タイバ         |    |       | バ・タヤ         |        |
|      | 甌島        | バ・タナラ         |    |       | バ・タラ         |        |

3.2 予測的条件文

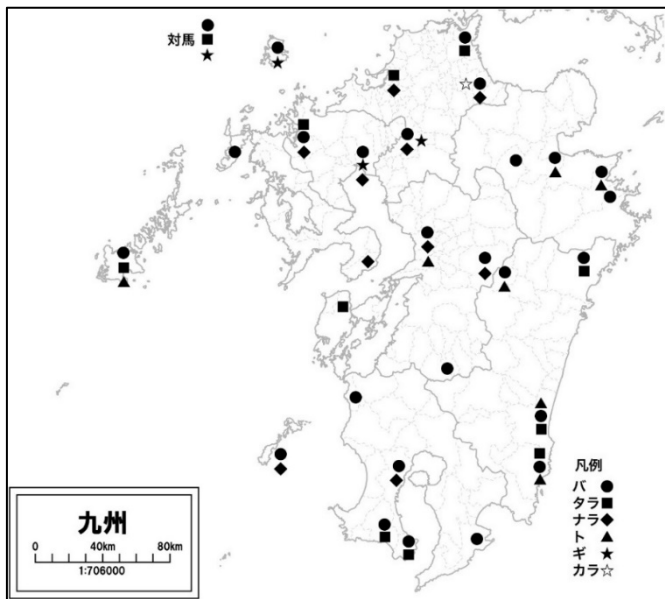


図 1 予測的条件文の形式分布

- ・ 全体的にバを中心として、タラ・ナラ・トのいずれかと併用されている。
- ・ 西部を中心にナラ (タナラ) の使用が広く見られる。
- ・ 予測的条件文に見られるタラの分布はGAJよりも広く見られる。
- ・ トの分布は、大分・宮崎を中心に広がる。

予測的条件文に見られるナラは以下のよう  
なものである。共通語においてもナラは予測  
的条件文に用いることができるが、(1) の

ような場合はタラが優先的に用いられる。

- (1) a. オクノホン ノボッタナラ マタ ヨツチェ オクレ (福岡・豊前、資料 109)  
b. サンジュネンバカリ マエー シンダモンガ イマー デテドン クンナラ マルデ  
ヒャクショーデン ナンデン シモキランガー (福岡・久留米、資料 63)  
c. オカエイガ アッタナー ユッキヤッタモハンカ (鹿児島・鹿児島、資料 454)

中央語の歴史においても近世期中期 (18 世紀) ころまで、タラもナラも等しく「未然形+バ」の下位形式として予測的条件文に用いられており、現代語であればタラが対応する範囲にナラが用いられていた (矢島 2013)。(1) の例は九州方言においても、ナラが「未然形+バ」の下位形式としてタラと同じように予測的条件文に使われていたことを示している。

- (2) そちが嘆きを見るならば未練な心やおこらんと。(快音浄瑠璃・三度笠：矢島 2013；88)

次に、タラについてみる。GAJ・FPJD においてタラが用いられているのは、「行ったら電話しろ」のような後件に文末に意志や命令などのモダリティがある場合である。談話資料でも (3) のように文末に命令や依頼などのモダリティをもつ場合が多い一方、(4) のように文末に特別な表現がない場合でのタラの使用も見られる。

- (3) a. フロニ イッタラ チャツター シマウ ゴツター ヨイ シックリネ (宮崎・日南、資料 406)  
b. セガラシカッターバナー カセドン クイヤイ (鹿児島・山川、資料 326)  
(4) a. ハーチガ サイタラ ビクット ショー (福岡・博多、資料 34)  
b. アンナ シナーワ トカイニ モツテイツテ クロウドン チューテ ウッタラ ウ  
ラエンモンジャロカナ (長崎・対馬、資料 132)  
c. ヨカヨカ シモーターリヤ スグ モツテクルケン (佐賀・玄海、資料 166)

トの分布は大分・宮崎・長崎 (五島)・熊本 (トシャガ) に見られる。トにおいても (5) のように、後件に望ましくない事態を取る例が見られる一方で、(6) のように特にそのような表現性を持たない例も見られる。

- (5) a. ツノー ノーショカント コンダ ゴガチ コマンドー (大分・挾間、ふるさと 135)  
b. フークェニ ヨースィ チョツテ クテト セメラルルカン シレンケ (宮崎・五ヶ瀬、資料 265)  
(6) a. オマイガ ショーバイオ スル ゴト ナルト オマイワ メシタキュー サセンケーテ (大分・臼杵、資料 220)  
b. オックカリ ヨメジョ モラウトー コトニ ココロミオ スルゲナー (宮崎・南方、資料 415)

以上のように、予測的条件文ではある程度の傾向はあるもののバ・タラ・ト・ナラがお互いに領域を重ねながら一定数用いられているという状況である。

### 3.3 事実的条件文

バとタラを比べてみると、同じ話者の経験した過去の出来事を述べる文であっても、タラが個人的な事態 (一回的な事態) であるのに対して、バは比較的習慣的なものや総称的な述べ方になっているという特徴がある。

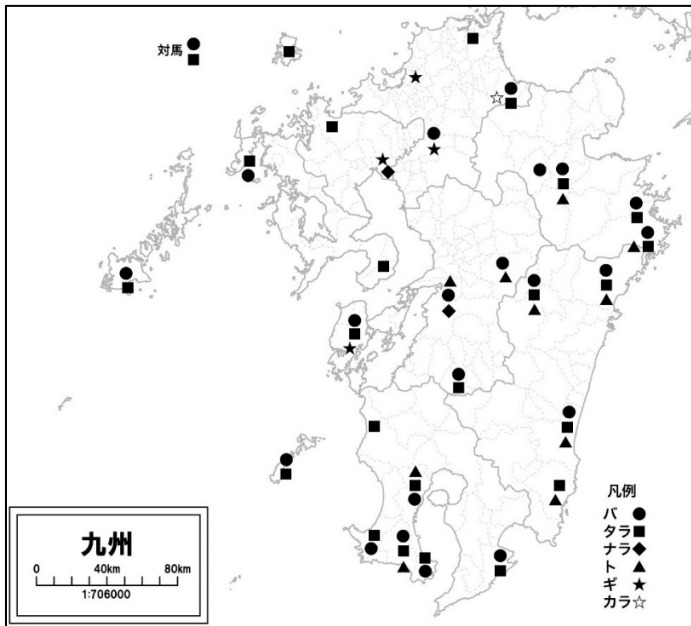


図2 事実的条件文の形式分布

・予測的条件文と同様にバが広く分布し、タラまたはトと併用している地点が多い。  
 ・GAJ および FPJD では、トの分布が見られないが大分、宮崎、熊本、鹿児島に分布している。

- (7) a. トージワ ウマイ モンガ ネクシテモ ハタラケバ サザエデン ナガラメデン  
 オイシカッタモンナ。(宮崎市、ふるさと 230)
- b. シチバンメニ シチャルモンナ ユータラ ソンゲナ ハザ ネー (同、ふるさと 226)
- (8) a. ゴハン アサムニヤ ハヨー トウオエチ スリヤ オキッテ ナーク。(宮崎県・五ヶ瀬、資料 261)
- b. ソイカル デテミタラ オメア ニワガ オメア ズーット マヤン モトマジ ワレチョルモン (同、資料 249)
- (9) a. クグミアン ジドーシャヂ イキヤー ソコン タノ ナケ ブッコロゲッタヨ (大分・弥生、資料 358)
- b. オレー「ソラー ジモマヂェ カリートウクンノカ」トウター 「インニヤー ソリヤー シモマヂ カリートウクンノヂャネー… (同・資料 363)

トはバと同様でどの地域でも習慣的なものがほとんどで、共通語における「部屋に入ると、太郎が立っていた」のような一回的な事態を取った例がほとんど見られない。

- (10) a. ムカシワ アメガ フット リョーニ イケンカッタヤロ (宮崎市、ふるさと 214)
- b. コウ ナゴー ココニ ヒオ テラレチョット ヤキナヤサルルガー (宮崎・南方 431)

資料の制約上、例が見られない＝用法がないとは言えないが、バ・トが頻繁に多回的な過去の事態に使われるのに比べ、タラのその使用がほとんど見られないことから、九州方言で用いられるタラは、共通語と同様に多回的な過去の事態には使えないという制約がある可能性が高い。

#### 4. 注目される形式

##### 4.1 ギ類

ギ類と見られる形式が『資料』の福岡市に見られる。GAJ (1980 年前後) では福岡市にはギ類は見られないので、1950 年頃にはギ類の使用があったと見られる。ほぼ同年代の調査と思われる九州方言学会による 1964~1965 年の調査 (老年層 60~75 歳) では、北九州市、甘木市 (現朝倉市) あたりに

ギ類が出現している（三井 2011）。福岡県には広くギ類が分布していたが 1980 年頃までに使われなくなったか。また、対馬、鹿児島市にも（14）のようなギ類の使用が見られた。さらに、今回の調査の範囲ではないが、大分県宇佐市にもギ類と見られる形式がある（12、江口正氏ご教示による）。また、五島にもギ類と見られる形式があったようである（13、原田走一郎氏のご教示による）。

- (11) a. アメノ フツテキタギツタエデスナ アミヤノ リョーシノ ウチノ オザシキバ カ  
ットイテデスナ（福岡・博多、資料 31）
- b. ハカタノ モンガ デヨーテカラ オーシェシ コーシェシ ナシタギンタイ 「……」  
ナンチューテ イュー コンチキショー ナンチューテ（同、資料 34）
- (12) オレタギニャー アミュー アンタ ヒキヤブツテ シモーキ（大分県宇佐市、各地方言  
収集緊急調査）
- (13) ソッパ クタギッ ハラン イト ナッゾ（上村 1970 より。表記をカタカナに改めた）
- (14) a. コリョ トリヨッタギー ヒガ クルイジャネカッ（長崎・対馬、資料 128）
- b. アイン シタギー アユ ウグッ クタギー ドヘオ スッデ（鹿児島市、資料 449）

以上のことから、ギ類は古くは GAJ や FPJD に現れているよりも広い範囲（少なくとも大分北部から福岡、佐賀、長崎、熊本、鹿児島）に分布していたと見られる。

## 4.2 ナレバ

佐賀県玄海町には予測的条件文に「ナリヤ」の形が見られる。

- (15) テッヂャーナイト ウンナリヤ バッテーン テッヂャーム ソギャン ナン セー  
ズー（佐賀・玄海、方言資料 176）

この「ナリヤ」はナレバに由来すると考えられる。神部（1966）では佐賀県北山にはナレー形があることが指摘されているし、佐賀市にはナイ（バ）が広く分布するがこれもナレバ由来であると考えられる。さらに、予測的条件文において、タレバ由来と考えられるタリヤは用いられている例もある。

- (16) シマンナッタリヤ スグ モツテキテ クレンナヤナー（佐賀・玄海、資料 166）

佐賀では予測的条件文の領域において「已然形+バ」の下位用法としてナレバ・タレバが用いられていた可能性を示唆する。

## 4.3 テカラ

テカラは GAJ では見られず FPJD に現れる形式である。しかし、本調査では 1954 年調査の福岡県豊前市岩屋におけるテカラの使用が確認できる。

- (17) a. クダル チュチカラ アンター アサマ ハヨー オケーチ（福岡・岩屋、資料 91）
- b. アカチェノゴイオ コーチーキチュー クレチカラ ソリト ゲター イツク コ  
チキチュクレチカ（ラ） モーソリガ ウレシューヂー ネキランヂャッタチコ（同 95）
- c. ミチエカラ ヤーム アンベーズ（同、資料 103）

三井（2019）では、テカラの拡大の方向としてバの制限を回避する形式として使用されはじめ、基本的な予測的条件文、反事実的条件文と拡大し、最後に事実的条件文と認識的条件文に用いられるようになるという過程を想定している。三井（2019）で事実的条件文が最後の段階に位置づけられたのは、FPJD においてテカラが事実的条件文での分布が少ないことによる。しかし、FPJD の事実的条件文は「行ったら終わっていた」であり、時間的な前後関係が後件⇒前件となる例文である。黒木（2008）によると大分県のテカラは、節を取る場合、時間的前後関係を表す形式であり、同時（「運転シヨツテカラ眠くな

ったので、車を止めて一眠りした」）、継起（「値段が下ガッテカラ買おう」）、開始時点（「あの選手は巨人に移ッテカラ、ずっと調子がよくない」）、原因理由（「天気がヨクテカラ、洗濯物がすぐ乾いた」）などの用法を持つ。これらの用法から考えるに、テカラは基本的には前件⇒後件の時間関係でなければならないと考えられる。FPJD においてテカラの事実的条件文があまり見られないのは例文の特性によるものである可能性が高い。

中央語においてトは「同時性・即時性」を起点として条件表現に参入したことが知られている（矢島 2013）。上記のようなテカラの特徴をふまえると、テカラも同時的な用法からの発達という可能性も考えられよう。

## 5. まとめ

- ・ 予測的条件文においてバが広く分布する一方、タラ・ト・ナラも普通の予測的条件文の形式として（バの用いられにくい領域のみを担うのではなく）分布している。
- ・ 事実的条件文においてバが広く分布する一方、タラ・トも広く用いられている。タラは全体的に、トは東部を中心に分布する。ただし、タラは一回的な過去の出来事のみを表すのに対し、バ・トは多回的（習慣的）な過去の出来事を表す傾向にある。
- ・ ギ類はもともと大分（北部）から福岡・長崎・熊本・鹿児島に広く分布する形式であった。
- ・ 佐賀県においては他の地域と異なり「已然形+バ」のありようが異なっていた可能性がある。
- ・ 大分県に見られるテカラはGAJよりも古い段階から存在する。「ト」と同様に同時性を起点として条件形式化した可能性が考えられる。

## 使用資料

国立国語研究所（編）（2008）『全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』第18・19・20巻、国書刊行会／日本放送協会（編）（1966, 67）『全国方言資料』第6巻九州編、第9巻へき地・離島編Ⅲ／国立国語研究所（編）（1989-2006）『方言文法全国地図』／大西拓一郎（編）（2016）『新日本言語地図』朝倉書店

## 参考文献

- 有田節子（2007）『日本語条件文と時制節性』くろしお出版
- 上村孝二（1970）「五島列島方言の表現文法」『鹿児島大学法文学部紀要 文学科論集』6 pp. 33-64,
- 神部宏泰（1966）「佐賀県北山方言の假定条件法」『国文研究』12, pp. 14-18, 熊本女子大学
- 黒木邦彦（2008）「大分県日田市方言における「-てから」の用法—「-て」「-きー」「-けんど」「-けどが」との比較をとおして—」『阪大社会言語学研究ノート』8, pp. 89-100
- 三井はるみ（2009）「条件表現の地理的変異—方言文法の体系性と多様性をめぐって—」『日本語科学』25, pp. 143-164
- （2011）「九州西北部方言の順接假定条件形式「ギー」の用法と地理的分布」『國學院雑誌』112 - 12, pp. 26-39
- （2015）「九州西南部方言における順接假定条件表現体系の多様性—熊本市方言と鹿児島県伊集院方言—」『日本語史の研究と資料』pp. 123-139, 明治書院
- （2019）「条件表現の全国分布に見られる経年変化—予測的条件文の場合—」『国語研究』82, pp. 40-59,
- 矢島正浩（2013）『上方・大阪語における条件表現の史的展開』笠間書院